



師田 保

湯沢駅東口活性化への 取り組みについて

湯沢駅東口駅前広場は昭和57年上越新幹線・大宮―新潟駅の暫定開業から2年後の昭和59年11月に完成しました。平成8年には一部議員からも再開発論が提案されましたが、明確な町の対応が示されないまま26年が経過、現在に至っております。現在西口においては民間団体が電柱埋設化協議会を設立、西口一体の活性化に向けてがんばっております。西口温泉街通りと湯沢で唯一の商店街を擁する東口駅前広場を訪れる人にとつては表玄関であります。東口駅前広場の再開発も必要な時期ではないかとの考えから以下に質問します。

路の落雪問題など、広場全体の構造を見直す時期ではないかと思いますが、町長の考えを伺います。

2 駅通り商店街で行われたこらっしやい湯沢収穫祭前夜祭は大盛況でした。こうした手作りのイベントに町としても何らかの助成をすべきと考えます。町長の考えは、3 川端康成の記念碑を東口広



湯沢駅東口広場

場に移転すれば新たな湯沢の名所になり、東口商店街の活性化にもつながると思いますが、如何ですか。

町長答弁

東口広場は共用開始から26年が経過し施設も老朽化し、バスやタクシープールに比べ自家用車プールが狭いのも事実です。また中央道路の屋根雪の落雪も問題があり通行者の安全確保が万全とは言えません。しかし、再開発についてはJRとの協議も必要であり、また何よりも多額な工事費を必要とすることから早急な取り組みは無理かと考えております。しかし、東口駅前広場は湯沢の玄関でもあります。見直しについては商店街の活性化にもつながるので広域的視点に立って関係機関の意見を拝聴し

ながら今後の研究課題として考えていきます。

こらっしやい湯沢収穫祭前夜祭の助成については、商工会を中心として組織されたこらっしやい湯沢収穫祭実行委員会に190万円を負担金として支出しており、収穫祭事業に使われているものと思っております。川端康成記念碑の移転については町内の観光施設全体を見回したなかで二つの案として考えていきたいと思っております。

三国・二居・三俣地区中 学生のスクールバスの 年間運行について

質問

現在この地域から通学している中学生は29名で冬期間の12月から3月31日まではスクールバスが運行しておりますが、4月から11月までは路線バスでの通学となっております。生徒の利便性、安全と安心、専属バスによる通学時間の短縮による勉学時間の増大などを考えればスクールバスの年間運行が必要かと思いますが、町長の考えを伺います。

教育長答弁

この路線については冬期間を

除き一般客の朝晩の路線バス利用がほとんどないことから以前同様の形態で運行しております。現段階で年間を通してのスクールバス運行に関しては学校等の統合を見据えたなかで検討したいと考えております。

就学援助制度について

質問

義務教育である小・中学生に対する湯沢町の就学援助制度の概要と利用件数についてお尋ねします。

教育長答弁

この制度は法に明記されており、経済的理由により就学困難と認められる小・中学生が義務教育を円滑に受けることができるよう、学用品費や給食費の一部を援助するものがあります。対象となる保護者は生活保護を受けている者、または保護を必要とする状態にある者、児童扶養手当の支給を受けた者、世帯全員が町民非課税など不安定な生活状態にあると教育委員会が認めた者が対象者です。現在この制度の利用者数は37世帯、児童生徒46人となっております。

一 般

質 問

質 問